

令和8年度 古賀市ひきこもり状態にある方に関する実態調査 (報 告)

Ⅰ. 実態調査の実施及び概要

■経 緯

昨今、「2025年問題」や「8050問題」などにおいて当事者や親の高齢化が叫ばれるなか、介護、障がい、保健、生活困窮などさまざまな分野において、「ひきこもり」が深刻化しています。

令和6年4月には孤独・孤立対策推進法が施行され、孤独・孤立の状態にある方の立場に立ち、状況に応じた支援を継続的に行うことや、令和7年1月には、「ひきこもり支援ハンドブック～寄り添うための羅針盤～」が作成され、ひきこもり支援の在り方も「自立」から「自律」へ向けたオーダーメイドの伴走型支援へと変化してきているところです。

目に見えづらい「ひきこもり」について、市としてめざす支援の方向性を実現するために実態調査を行い、得られた調査結果を、次年度以降の支援方針・事業化判断のための基礎資料として活用することとしています。

■対 象

市内在住の15歳以上（中学生除く）の「ひきこもり」状態にあると思われる方（寝たきり等の身体的な事情によるものは除く）及びその関係者。

【ひきこもりの定義】

仕事や学校に行かず（行けず）、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに6か月以上続けて自宅にひきこもっている状態（厚生労働省定義）
（たまに買い物等に出かけられることを含む）

＜補足説明＞令和7年1月に厚生労働省が作成した「ひきこもり支援ハンドブック～寄り添うための羅針盤～」では、ひきこもり支援対象者のひきこもり期間は問わないこと、本人だけではなく家族も支援対象者であると定義された。

■調査方法

①当事者・家族向け調査

【調査方法】

市広報誌、市公式ホームページ、市公式LINEをはじめとするSNS等で全体において周知し、ひきこもり当事者、家族、関係者等に該当する方がWEB アンケートにより回答い

ただけるよう依頼しました。

【調査期間】

令和8年6月15日～7月15日

【調査結果】

回答件数：18件

②関係相談機関（支援者）向け調査

相談業務に関わる関係機関あてに、把握しているひきこもり情報について回答を依頼しました。

【調査対象機関】：市内相談支援機関（生活困窮者自立相談支援機関、子ども・若者相談室、基幹相談支援センター、地域包括支援センター、民生委員・児童委員、CSW（社会福祉協議会））

【調査期間】

令和8年6月15日～7月15日

【調査結果】

回答件数：49件

■調査フロー

	①当事者・家族向け調査	②関係相談機関（支援者）向け調査	
	ひきこもり当事者・家族	相談支援機関 包括・C S W	民生委員・児童委員
4 月	WEB 調査票確認	説明文作成、調査票（紙）内容確認	
5 月		各相談機関への依頼	
6 月	HP・SNS 周知 調査開始	調査開始	6 月期定例会にて依頼
7 月	調査終了	調査終了	
8 月	集計	集計・分析	
9 月	分析		
10月	分析結果を踏まえた事業計画の検討		

2. 実態調査の結果

(1) 当事者・家族向け調査

1. 回答者について

回答者の立場	件 数	割 合
同居の家族	10件	55.6%
ひきこもり状態にある方（本人）	6件	33.3%
別居の家族	2件	11.1%
合 計	18件	100%

回答者は『同居の家族』が最多（55.6%）で、本人回答も33.3%を占めました。

2. ひきこもり状態にある方の年齢

年齢層	件 数
15～17歳（中学生を除く）	1件
20～24歳	2件
25～29歳	3件
30～34歳	2件
35～39歳	3件
45～49歳	5件
50～54歳	1件
70歳代	1件
合 計	18件

30～49歳の中高年齢層が最多（10件・約56%）、45～49歳（5件）が最も多い年齢層となりました。

3. ひきこもり状態にある方の性別

性 別	件 数	割 合
男性	13件	72.2%
女性	4件	22.2%
回答しない	1件	5.6%

男性が7割以上を占める結果となりました。

◇ひきこもり状態にある方の年代・性別一覧

年代	男	女	不明	計	割合
10代	1	—	—	1	6%
20代	2	2	—	4	22%
30代	3	2	—	5	28%
40代	5	—	1	6	33%
50代	1	—	—	1	6%
70代	1	—	—	1	6%
計	13	4	1	18	—
割合	72%	22%	11%	—	—

幅広い年代の方について回答をいただきました。

4. 世帯状況

世帯状況	件数
家族と同居	17件（94.4%）
ひとり暮らし	1件（5.6%）

同居家族の内訳（複数回答）

同居家族	件数
父母	12件
兄弟姉妹	5件
子・孫	3件
祖父母	2件
その他（母と義父など）	1件
計	17件

ほぼ全員が家族と同居しており、父母との同居が最多となっています。

5. ひきこもり状態の期間

期間	件数	割合
1年未満	3件	16.7%
2～5年	2件	11.1%
6～9年	3件	16.7%
10～20年	8件	44.4%
21年以上	1件	5.6%

不明	1 件	5. 6 %
----	-----	--------

10年以上の長期化が約半数（9件・50％）を占め、深刻な長期化の実態が明らかとなっています。

◇ひきこもり状態の期間（年代別一覧）

年代	1 年未満	2 ～ 5 年	6 ～ 9 年	10～20 年	21 年以上	計
10代	1	—	—	—	—	1
20代	1	—	—	1	—	2
30代	1	—	2	2	—	5
40代	—	2	—	3	1	6
50代	—	—	1	2	—	3
70代	—	—	—	1	—	1
計	3	2	3	9	1	18人

若い年代のひきこもり状態の期間は比較的短いのに対し、稼働年代におけるひきこもり状態が長期化していることがわかります。

ひきこもり期間が長くなった理由としては、不登校や離職、家庭の事情以外には「疾病」が一番多く挙げられていました。

6. ひきこもり状態になったきっかけ（複数回答）

きっかけ	件 数
不登校	8 件
疾病（精神的なもの）	7 件
職場になじめず	5 件
失業・退職	4 件
性格的なもの	4 件
病気やケガ	2 件
就職活動がうまくいかなかった	1 件
受験でのつまづき	1 件
事故や犯罪被害	1 件
わからない	1 件

不登校（8件）・精神疾患（7件）・職場不適応（5件）が主な3大要因となっていますが、複数のきっかけが重なるケースも多くなっています。

ひきこもり状態になったきっかけ（年代別一覧）

	不登校		受験でのつまづき	就職失敗	職場になじめず	失業・退職	病気やケガ	疾病（精神的なもの）	性格的なもの	事故・犯罪被害	わからない
	小・中学校	高校									
10代	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—
20代	3	1	—	1	—	—	—	1	—	—	—
30代	2	—	—	—	2	—	2	1	2	1	1
40代	1	—	—	—	3	3	—	4	2	—	—
50代	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—
70代	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—
計	6	2	1	1	5	4	2	7	4	1	1

若い世代では「不登校」の割合が高くなっており、稼働年代では「疾病（精神的なもの）」が一番多く、職場の不適合や失業、退職といった職場に起因する理由が多くなっています。Q5の回答では30代以上のひきこもり期間が長期化していることから、疾病や職場不適應がきっかけとなり、長期のひきこもり状態にいたっていると考えられます。

不登校の原因（複数回答）

集団行動との相性	7
親との関係性	5
不安・抑うつ	5
感覚過敏	4
体調不良	4
家庭が抱える複雑な事情	3
いじめ	2
教職員との関係	2
学業不振	2
生活リズムの乱れ	2
無気力	2
いじめ以外の人間関係	1
部活動での悩み、トラブル	1
その他	1

10～40代がひきこもり状態になったきっかけに「不登校」を挙げており、その原因については「集団行動との相性」が一番多く、次いで親との関係性や不安・抑うつ、感覚過敏といった順になっています。周囲の環境への適応が難しい状態におかれ、結果、不登校へつな

がっているケースが多いと考えます。

7. 外出の状況

外出頻度

外出頻度	件 数
必要に応じて外出することもある	15件（83.3%）
自室から出るが、家から出ない	2件（11.1%）
その他	1件（5.6%）

外出先（複数回答）

外出先	件 数
医療機関	13件
近所のコンビニやスーパー	11件
趣味の用事	9件
理・美容室	7件
その他（外食・家族行事など）	2件

家から出られない方が2名おり、外出できる場合も医療機関への通院が最多となっています。

外出先（年代別一覧）

年代	趣味の用事のときに外出する	近所のコンビニやスーパーなどには出かける	医療機関などに出かける	理・美容室などには出かける	その他
10代	1	1	—	1	—
20代	4	1	3	1	1
30代	2	3	5	2	—
40代	1	5	4	2	—
50代	1	1	1	1	1
計	9	11	13	7	2

全ての年代を通して、「必要最低限の外出（医療機関や買い物）」は可能であると回答しており、完全に社会から隔離されているわけではない層が多いことが特徴です。

8. 相談・支援の状況

現在の支援状況

状 況	件 数	割 合
支援を受けている	7 件	3 8 . 9 %
相談したことはあるが支援は受けていない	4 件	2 2 . 2 %
相談をしたことがなく支援を受けていない	6 件	3 3 . 3 %
わからない	1 件	5 . 6 %

支援につながっていない方が約6割。

現在の支援状況（年代別）

年代	支援を受けている	相談したことはあるが、支援を受けていない	相談をしたことがなく、支援を受けていない	わからない
1 0 代	—	1	—	—
2 0 代	3	1	1	—
3 0 代	2	1	1	1
4 0 代	1	1	3	—
5 0 代	1	—	—	—
7 0 代	—	—	1	—
計	7	4	6	1

受援中の方や、すでに相談窓口につながったことがある方は6割を超えている一方、支援を受けていない方も約6割となっています。当事者が望むものに足りないのか、相談から支援に移行するまでに何か課題があるものと考えます。

相談・支援先

相談先	件 数
医療機関（病院など）	4 件
行政機関（市役所、保健センターなど）	3 件
民間の支援機関（NPO法人など）	2 件
その他（ハローワーク・電話相談等）	2 件

医療機関で相談支援を受けている方が多く、次いで行政機関となっています。

9. 相談・支援を受けていない理由

本人側の理由

理 由	件 数
話すことが苦手・対人恐怖の気持ち	1 件

家族側の理由

理 由	件 数
どこに相談して良いのか分からない・誰に相談してよいか分からない・どうしたらよいか分からない・支援があると知らなかった	4 件
本人が拒否するから	3 件
体調が悪い	1 件

ひきこもり状態にある方（本人）6名のうち、4名は支援を受けていて、支援を受けていない2名のうち1名は対人面での障壁を感じているようです。

一方、家族側の理由として相談先がわからないなど、既存の相談窓口の周知徹底が課題となっています。加えて、過去に市の福祉相談窓口において対応が不十分だったなど、支援(相談)機関への不信・不満が一部の回答に見られました。

10. 求めているサポート

本人が求めるサポート（複数回答）

サポート内容	件 数
気軽に相談できる窓口	3 件
社会体験の場	3 件
生活の支援	2 件
その他（静かな場所、不安感から支援内容を思いつかない）	2 件
悩みを話し合い、集える場所	1 件
仕事探しの支援	1 件
メタバースなど匿名で悩みを話し合い集える場所	1 件
自宅への訪問	1 件

本人が求めるサポート（年代別）

年代	気軽に相談窓口	社会体験	生活支援	集える場所	仕事探し	メタバースなど	自宅への訪問	その他
10代	—	—	—	—	—	—	—	—
20代	—	—	1	—	—	—	—	—
30代	3	3	1	1	1	—	1	—
40代	—	—	—	—	—	1	—	1
50代	—	—	—	—	—	—	—	1
70代	—	—	—	—	—	—	—	—
計	3	3	2	1	1	1	1	2

「気軽に話せる相談窓口」と「社会体験の場」が一番多くなっており、支援を受けていないと回答した両名ともに、その2つを挙げています。

家族が求めるサポート

サポート内容	件数
気軽に相談できる窓口	7件
生活の支援	6件
社会体験の場	5件
福祉サービスの申請支援	5件
悩みを話し合い、集える場所	4件
仕事探しの支援	4件
医療機関の紹介	3件
メタバースなど匿名で悩みを話し合い集える場所	3件
自宅への訪問	2件

家族からは「気軽に相談できる窓口」へのニーズが最も高く（7件）、本人・家族ともに相談しやすい環境の整備が求められていると考えます。

11. 家族の困りごと

困りごと	件数
当事者の将来（親亡き後）の生活設計	9件
家族自身の心身の不調・ストレス	7件
経済的な負担（生活費、医療費など）	6件

家庭内暴力（暴言・暴力）がある	3件
近隣の目が気になる	3件
どこに相談すればよいか情報が無い	3件
当事者とのコミュニケーションが取れない	2件

「親亡き後の生活設計」が最多（9件）で、将来への不安が家族の最大の悩みとなっているようです。加えて本人だけでなく、家族自身の心身の不調や、経済面・家庭内暴力に対するケアも強く求められています。

12. 自由記述・行政への意見

たくさんの方から多くのご意見をいただきました。

当事者は、思いどおりにいかない現状への苦悩や、今後の生活の不安など、さまざまな思いを抱えていらっしゃる事がわかりました。

また、そのご家族から、当事者との関わりかたに苦慮されている様子や、親亡き後の生活への心配などが見られました。

お寄せいただいた回答は、今後の施策検討に活かしてまいります。

(2) 関係機関（支援者）向け調査

1. 回答者について

回答者の属性

属 性	件 数	割 合
民生委員・児童委員	36件	73.5%
その他（保健師・学校職員・受託業者等）	7件	14.3%
地域包括支援センター	2件	4.1%
市職員	1件	2.0%
介護支援専門員	1件	2.0%
（空白・不明）	2件	4.1%
合 計	49件	100%

回答者の約7割が民生委員・児童民生委員であり、地域の見守り役が中心となっています。

2. ひきこもり状態にある人の有無

回 答	件 数	割 合
いる（いた）	17件	34.7%
いない	18件	36.7%
わからない	9件	18.4%
聞いたことはあるが、詳細は把握していない	5件	10.2%
合 計	49件	100%

「わからない・詳細不明」を合わせると14件（28.6%）が実態を把握できておらず、潜在的なひきこもり状態の存在が示唆されます。

3. 当事者の年代・性別（いる・いた）17件

年代

年 代	件 数
15歳（中学生除く）～19歳	3件
20代	1件
30代	3件
40代	2件
50代	5件（最多）
60代	1件
70代	1件

不明	1 件
----	-----

50代が最多（5件）で、次いで10代後半・30代が各3件でした。10代から70代まで幅広い年代にひきこもり状態にある方が存在しています。

性別

性 別	件 数
男性	13 件
女性	4 件

男性が約4分の3（76.5%）を占めました。

4. 対象者の同居者（複数回答・17件）

同居者	件 数
父母	6 件
ひとり暮らし	4 件
兄弟姉妹	2 件
配偶者・パートナー	2 件
その他（母子家庭・母と弟等）	4 件
把握していない	0 件
子・孫	0 件
祖父母	0 件

父母との同居が最多（6件）。ひとり暮らしも4件あり、孤立した状況にある方も一定数存在します。

5. ひきこもり状態になったきっかけ（複数回答・17件）

きっかけ	件 数
不登校	5 件
疾病（精神的なもの）	5 件
職場になじめなかった	3 件
失業・退職	2 件
性格的なもの	2 件
受験でのつまづき	1 件
就職活動がうまくいかなかった	1 件
把握していない	4 件
その他（家族との関係、部活動トラブル、	4 件

産後鬱・更年期、いじめ等)	
---------------	--

不登校・精神疾患が各５件で同率首位。「把握していない」も４件あり、支援者が実態を把握しきれていないケースも多くみられます。

５．ひきこもり状態の期間

期 間	件 数
１年未満	２件
２～５年	２件
６～９年	２件
１０～２０年	４件
２１年以上	１件
把握していない	３件
未記入	３件
合 計	１７件

１０年以上の長期化が５件（把握分の約４５％）を占め、長期化の深刻さが支援者側の調査でも確認されました。

６．対象者の外出頻度

外出頻度	件 数
必要に応じて外出している	７件
自室からは出るが、家からは出ない	３件
自室からほとんど出ない	１件
把握していない	２件
その他（ゲームなどほしい物がある時のみ、決められた人とのみ面談可等）	２件
未記入	２件

７．状況把握の方法（複数回答・１７件）

把握方法	件 数
家族からの相談	１１件
近所からの相談	３件
その他（前民生委員からの引継ぎ、近所の人等）	３件

本人からの相談	1 件
職務上の訪問等で確認	0 件

「家族からの相談」が圧倒的多数（11件）で、ひきこもり状態にある方の把握は家族からの情報に大きく依存している実態が明らかなです。

8. 対象者等が抱えている問題（複数回答・17件）

問 題	件 数
対象者の将来（親亡き後）の生活設計	9 件
対象者の家族の負担が大きい（家族が抱える心身の不調・ストレス）	9 件
家族の高齢化	7 件
対象者に社会とのつながりが無い	7 件
経済的困窮（生活費、医療費など）	6 件
対象者と会えない、コミュニケーションが取れない	6 件
対象者の健康上の問題	5 件
対象者の状態にあった就労先が無い	4 件
対象者に就労経験が無い、または乏しい	3 件
対象者の騒音等の行動	2 件
家庭内暴力がある、またはそのおそれがある	0 件
その他	5 件

※「その他」の内訳：セルフネグレクト、生きる気力が無い、精神疾患による、近所の児童に対して必要以上の行動、発達特性がある場合の2次障がい等。

「親亡き後の生活設計」「家族の負担」が各9件で最多。8050問題に象徴される家族全体の困難が浮き彫りになっています。

9. 日頃の業務・支援の状況（17件）

状 況	件 数	割 合
現在、支援を行っている（訪問・声かけ等含む）	8 件	47.1%
以前、支援を行っていたことがある	4 件	23.5%
特に支援は行っていない・行ったことはない	4 件	23.5%
未記入	1 件	5.9%

支援の内容

- ・ 家族への接し方・病院受診等についての助言
- ・ 金銭管理面について日常生活自立支援事業等の担当（社協）へのつなぎ
- ・ 兄への連絡・弁護士への情報提供・本人自宅訪問（ライフライン停止ケース）
- ・ 自治会行事・スポーツクラブへの誘い、LINE での様子確認
- ・ 自治会でのバーベキュー案内・公民館集まりへの声かけ
- ・ 近所への訪問・傾聴
- ・ 保健担当として訪問後、福祉部局と同行訪問し引継ぎ
- ・ 特定の人を通じた間接的な支援

10. 支援に対する困難度（複数回答・17件）

困難な点
精神疾患や発達障がい疑いがあるが受診につながらない
支援者の専門知識、スキルや経験が十分でない
家族の協力が得られない
セルフネグレクト状態である
支援者の人員不足
家族から、早急な自立や就労をさせるよう求められる
激しい暴力・暴言がある
その他（家族・近所の人など当事者以外の支援が必要、家族の支援希望がなかった等）

「精神疾患・発達障がい疑いがあるが受診につながらない」が最多（6件）で、医療機関との連携強化が急務です。

11. 必要な支援の内容（全49件対象・複数回答）

必要な支援	件数	割合
気軽に相談できる窓口	35件	71.4%
自宅への訪問	28件	57.1%
悩みを話し合い、集える場所	28件	57.1%
福祉サービスの申請支援	24件	49.0%
生活の支援	22件	44.9%
社会体験の場	16件	32.7%
医療機関の紹介	15件	30.6%

メタバースなどを活用した、匿名での交流・相談の場	11件	22.4%
仕事探しの支援	10件	20.4%
その他（家族への支援、専門職を中心とした体制整備等）	3件	6.1%

「気軽に相談できる窓口」が最多（35件・71.4%）。次いで、「自宅への訪問」「悩みを話し合い、集える場所」が各28件（57.1%）で続き、アクセスしやすい相談体制と居場所づくりへのニーズが高いことがわかります。

12. 自由記述（主な意見）

たくさんの方から多くのご意見をいただきました。

支援者として、当事者やその家族へのアプローチについて困難を感じていることや関係機関同士での連携の必要性、個人情報の取扱いの難しさなどが挙げられており、支援者自身の対応スキルなどについて相談する専門の窓口を求める声も見受けられました。

お寄せいただいた回答は、今後の施策検討に活かしてまいります。

3. 実態調査の結果

(1) 当事者・家族向け調査

今回の調査には、当事者からも多数の意見を得られ、関心の高さが感じられました。

内閣府の全国調査に基づくひきこもり状態の推計人数から考えると、回答数の割合は決して高くないと考えられることから、今回の各項目における指標については、ひきこもりの典型というよりは、一定程度関心のある層の意見の反映ととらえるのが妥当ではないかと考えます。

行政などに望むこととしては、気軽に相談できる場所や社会体験の場といった、きっかけとなる機会についてのものが多くありました。相談窓口については、既存の相談支援体制があるものの、情報がうまく伝わっていないことや、相談からの支援体制が十分でないのではないかと考えられます。

市としては、今後も情報発信に努めるとともに、相談支援体制の一層の充実と、集える場所といった現在不足している資源についても整備していく必要があるものと考えます。

(2) 関係機関（支援者）向け調査

関係機関調査については、民生委員・児童民生委員をはじめ多くの支援者にご協力をいただきました。ひきこもり状態にある方については回答者の把握している情報に基づいているため、対象者が重複している等単純に数値で判断することは難しいですが、年代が高くなるほどひきこもり期間が長期化するなど、「(1)当事者・家族向け調査」の結果と同様の傾向もみられました。

必要と考える支援についても、相談窓口へのアクセスや社会体験先の充実、支援機関同士の連携に加えて支援者の知識・スキルを補う体制の整備など、多くの意見をいただきました。

4. 資料

(1) 当事者・家族向け調査 調査用紙

(1) 当事者・家族向け調査 調査用紙

古賀市ひきこもり状態にある方に関する実態調査

周りに相談しづらい「ひきこもり」について、本市における実態を把握するため、ひきこもり状態にある本人およびその家族等へアンケートを実施するものです。

ご協力をお願いいたします。

※名前や住所の入力は不要です。回答内容は統計的に処理され、個人の特定や強制的な介入には使用しません。

【対象者】

市内在住の15歳以上（中学生を除く）の「ひきこもり」状態にあると思われる方とその家族等。
 （※寝たきり等の身体的な事情によるものを除きます）

【「ひきこもり」の定義】

仕事や学校に行かず（行けず）、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに6ヶ月以上続けて自宅に引きこもっている状態（たまに買い物等に出かけることがある場合も「ひきこもり」に含む）。

【実施期間】

令和8年6月15日～令和8年7月15日まで

ひきこもり当事者・家族むけ調査

※は回答必須

問1 回答者はどなたですか※

いま、回答いただいている方の属性について、あてはまるものをひとつ選択してください。

ひきこもり状態にある方（本人）	
同居の家族	
別居の家族	
その他	
「その他」と回答いただいた場合は、具体的な内容をご記載ください。	

問2 ひきこもり状態にある方の人数※

問1で「ひきこもり状態にある方（本人）」に当てはまらない場合のみ回答

ひきこもり状態にある方の家族等におたずねします。ひきこもり状態にある方は何人いますか。あてはまるものをひとつ選択してください。

（複数人いらっしゃる場合は、当事者ごとに回答フォームをかえ、それぞれの状況について個別にアンケートに回答してください。）

1人	
2人	
3人	
4人	
5人	

問3 ひきこもり状態にある方の年齢について※

ひきこもり状態にある方の年齢を下記から選択してください。

15～17歳（中学生を除く）		50～54歳	
18～19歳		55～59歳	
20～24歳		60～64歳	
25～29歳		65～69歳	
30～34歳		70歳代	
35～39歳		80歳以上	
40～44歳		不明	
45～49歳			

問4 ひきこもり状態にある方の性別について※

ひきこもり状態にある方の性別について伺います。下記からひとつ選択してください。

男性	
女性	
回答しない	

問5 ひきこもり状態にある方の世帯状況について

家族と同居していますか。下記からひとつ選択してください。

ひとり暮らし	
家族と同居	
その他	
「その他」と回答いただいた場合は、具体的な内容をご記載ください。	

問6 同居の家族について※

問5で「ひとり暮らし」に当てはまらない場合のみ回答

ひきこもり状態にある方と同居している家族について、すべて選択してください。

配偶者・パートナー	
父母	
兄弟姉妹	
祖父母	
子・孫	
兄弟姉妹の子（甥・姪）	
その他	
「その他」と回答いただいた場合は、具体的な内容をご記載ください。	

問7 回答者（家族）の年代について※

問1で「ひきこもり状態にある方（本人）」に当てはまらない場合のみ回答

いま回答いただいている方（家族）の年齢を把握するため、下記からひとつ選択してください。

20代		70～74歳	
30代		75～79歳	
40代		80～84歳	
50代		85～89歳	
60～64歳		90歳以上	
65～69歳			

問 8 ひきこもり状態になられてからの期間※

ひきこもり状態になられて、どのくらい経っていますか。下記からひとつ選択してください。

1 年未満	
2 ～ 5 年	
6 ～ 9 年	
1 0 ～ 2 0 年	
2 1 年以上	
不明	

問 9 ひきこもり状態の期間が長くなった理由

問 8 で「ひきこもり状態になられてからの期間」が 1 0 年以上に該当する場合のみ回答

前の設問で 1 0 年以上と回答した方に伺います。ひきこもり状態の期間が長くなったことについて、思い当たる理由や事情などがあればお聞かせください。

例) 離職, 病気やケガなど

問 1 0 ひきこもり状態になったきっかけについて※

ひきこもり状態になったきっかけは何ですか。あてはまると思うものをすべて選択してください。

不登校	
受験でのつまずき	
就職活動がうまくいかなかった	
職場になじめず	
失業・退職	
病気やケガ	
疾病（精神的なもの）	
性格的なもの	
事故や犯罪被害	
わからない	

問 1 1 不登校の時期※

問 9 でひきこもり状態になったきっかけが「不登校」を含む場合のみ回答

ひきこもり状態になったきっかけの不登校が始まった時期について、下記からひとつ選択してください。

小学校	
中学校	
高校	
大学	
その他	

問 1 2 不登校の原因※

問 9 でひきこもり状態になったきっかけが「不登校」を含む場合のみ回答

登校しなく（できなく）なった原因について、当てはまると思うものをすべて選択してください。

親との関係性		集団行動との相性	
家庭が抱える複雑な事情		感覚過敏	
いじめ		生活リズムの乱れ	
いじめ以外の人間関係		体調不良（頭痛・腹痛，だるさ等）	
部活動での悩み・トラブル		無気力（なんとなくやる気がでない）	
教職員との関係性		不安・抑うつ（理由のない不安感・気分落ち込み）	
学業不振		その他	

問 1 3 受験でつまづいた時期※

問 1 0 でひきこもり状態になったきっかけが「受験でのつまづき」を含む場合のみ回答

どの受験におけるつまづきがきっかけだったかを伺います。下記からひとつ選択してください。

中学受験	
高校受験	
大学受験	
就職試験	
その他	

問 1 4 受験によるつまづき時の相談の有無

問 1 0 でひきこもり状態になったきっかけが「受験でのつまづき」を含む場合のみ回答

受験がうまくいかなかった時期に、相談をしたり、支援を受けたりされたか、またその相談先や支援内容について教えてください。

例）相談しなかった，高校の担任に相談した，塾の先生に相談した など

--

問 1 5 外出の頻度について※

ふだんどのくらい外出されますか。もっともあてはまると思うものをひとつ選択してください。

必要に応じて外出することもある	
自室から出るが、家からでない	
自室からほとんどでない	
わからない	

問 1 6 外出の頻度について※**問 1 5「必要に応じて外出することもある」を選択した場合のみ回答**

前の設問で必要に応じて外出することもあると答えた方に質問です。どのようなときに外出されますか。あてはまるものを全て選択してください。

趣味の用事のときに外出する	
近所のコンビニやスーパーなどには出かける	
医療機関などには出かける	
理・美容室などには出かける	
その他	

問 1 7 現在の支援状況について※

現在、支援機関に相談したり、支援を受けたりしていますか。もっともあてはまるものをひとつ選択してください。

支援を受けている	
相談したことはあるが、支援は受けていない	
相談したことはあるが、支援は受けていない	
相談をしたことがなく、支援を受けていない	
支援を受けていないが、受けてみたい	
わからない	

問 1 8 相談・支援先※**問 1 7「支援を受けている」または「相談したことはあるが、支援は受けていない」のいずれかを選択した場合のみ回答**

前の設問で相談したことがある、支援を受けていると答えた方に質問です。どのようなところで相談したり、支援を受けたりしていますか。下記からひとつ選択してください。

行政機関（市役所、保健センターなど）	
民間の支援機関（NPO法人など）	
教育機関（学校など）	
医療機関（病院など）	
民生委員・児童委員	
その他	
（webや電話相談など具体的に記入してください）	

問 1 9 相談したり支援を受けたりしていない理由（本人）※**回答者がひきこもり状態にある方（本人）かつ、問 1 6「支援を受けている」「わからない」を含まない場合のみ回答**

前の設問で現在支援を「受けていない」または「受けていないが、受けてみたいと思っている」と答えたひきこもり状態にある方（本人）に質問です。相談することが難しかったり、支援を受けるに至らなかった事情などがあれば教えてください。（もっともあてはまると思うものをひとつ選択してください。）

どこに相談して良いのか分からない・誰に相談してよいかわからない・どうしたらよいかわからない・支援があると知らなかった	
面倒くさい	
話すことが苦手・対人恐怖の気持ち	

体調が悪い	
必要としない	
支援（相談）機関への不信・不満	
その他	

問 2 0 相談したり支援を受けたりしていない理由（家族）※

回答者がひきこもり状態にある方（本人）以外かつ、問 1 6「支援を受けている」「わからない」を含まない場合のみ回答

前の設問で現在支援を「受けていない」または「受けていないが、受けてみたいと思っている」と答えた家族の方に質問です。相談することが難しかったり、支援を受けるに至らなかった事情などがあれば教えてください。（もつともあてはまると思うものをひとつ選択してください。）

どこに相談して良いのかわからない・誰に相談してよいかかわからない・どうしたらよいかかわからない・支援があると知らなかった	
面倒くさい	
体調が悪い	
必要としない	
支援（相談）機関への不信・不満	
ひきこもり状態にある本人が拒否するから	
その他	

問 2 1 ひきこもり状態へのサポートについて（本人）※

回答者がひきこもり状態にある方（本人）の場合のみ回答

ひきこもり状態の方に向けて、どのようなサポートがあると良いと思いますか。あてはまると思うものをすべて選択してください。

メタバース（インターネット上の仮想空間）など、匿名で悩みを話し合い集える場所		福祉サービスの申請支援	
		生活の支援	
気軽に相談できる窓口		社会体験の場	
自宅への訪問		悩みを話し合い、集える場所	
医療機関の紹介		仕事探しの支援	
その他			
「その他」と回答いただいた場合は、具体的な内容をご記載ください。			

問 2 2 ひきこもり状態へのサポートについて（家族の目線）※

回答者がひきこもり状態にある方（本人）以外の場合のみ回答

ひきこもり状態の方に向けて、どのようなサポートがあると良いと思いますか。あてはまると思うものをすべて選択してください。

メタバース（インターネット上の仮想空間）など、匿名で悩みを話し合い集える場所		福祉サービスの申請支援	
		生活の支援	
気軽に相談できる窓口		社会体験の場	
自宅への訪問		悩みを話し合い、集える場所	

コトヘノサカサシ		問題の解決に向けて、来るべき未来	
医療機関の紹介		仕事探しの支援	
その他			
「その他」と回答いただいた場合は、具体的な内容をご記載ください。			

問 2 3 ひきこもり状態の方の家族の困りごとについて※

回答者がひきこもり状態にある方(本人) 以外の場合のみ回答

ひきこもり状態の方を支える家族の方におたずねします。現在、家族として特に困っていることは何ですか。あてはまるものをすべて選択してください。

経済的な負担（生活費、医療費など）		近隣の目が気になる	
当事者とのコミュニケーションが取れない		どこに相談すればよいか情報が無い	
家庭内暴力（暴言・暴力）がある		当事者の将来（親亡き後）の生活設計	
家族自身の心身の不調・ストレス		とくに困っていることはない	
その他			

問 2 4 困りごとなどについて

現在、問題や困りごとがありましたらお聞かせください。（自由記述）

(2) 関係機関（支援者）向け調査 調査用紙

ひきこもり状態にある方についての実態調査（関係機関・支援者向け）

本調査は、市内におけるひきこもりの現状等を把握し、今後の具体的な支援施策の検討に活用することを目的として実施するものです。お手数をおかけしますが、ご協力をお願いします。

なお、日頃の業務や活動等の中で把握されているひきこもり状態にある方の情報についてお伺いするものであり、新たな聞き取りや訪問などを行っていただく必要はありません。

この調査票に記載のQRコード（またはURL）からご回答ください。

把握されているひきこもり状態にある方が複数名おられる場合は、お手数ですがそれぞれの方についてQRコードからご回答ください。

URL : <https://shinsei.pref.fukuoka.lg.jp/fU3284H5>

調査対象

市内在住の15歳以上（中学生を除く）の「ひきこもり状態」にあると思われる方

※寝たきり等の身体的な事情によるものを除きます

ひきこもりの定義

仕事や学校に行かず（行けず）、かつ家族以外の人との交流もほとんどせずに6ヶ月以上続けて自宅に引きこもっている状態（たまに買い物等に出かけることがある場合でも「ひきこもり」に含む）。



以下の質問にお答えください。

Q 1. ご回答いただいている方の属性について、あてはまるものを1つ選択してください。

- ☐ 民生委員・児童委員
- ☐ 地域包括支援センター
- ☐ ONPO 法人、民間支援団体等
- ☐ 介護支援専門員
- ☐ 市職員
- ☐ その他（記入してください）

Q 2. あなたが日頃の業務や活動等において関わっている方で、その本人や家族に「ひきこもり」状態にある人（以下、「対象者」）がいましたか。あてはまるものを1つ選択してください。

- ☐ いる（いた）
- ☐ いない → Q 1 6 へ
- ☐ 聞いたことはあるが、詳細は把握していない → Q 1 6 へ
- ☐ わからない → Q 1 6 へ

【Q 2で「いる（いた）」と回答した方のみ】対象者について、わかる範囲でご回答ください。

Q 3. 対象者の年齢について把握していますか。あてはまるものを1つ選択してください。

- ☐ 15 歳（中学生除く）～19 歳
- ☐ 20 代
- ☐ 30 代
- ☐ 40 代
- ☐ 50 代
- ☐ 60 代
- ☐ 70 代
- ☐ 80 歳以上
- ☐ 把握していない

Q 4. 対象者の性別について把握していますか。あてはまるもの1つ選択してください。

- ☐ 男性
- ☐ 女性
- ☐ 把握していない

Q 5. 対象者と同居する家族について把握していますか。あてはまるものをすべて選択してください。（複数回答可）

- ☐ ひとり暮らし
- ☐ 配偶者・パートナー
- ☐ 父母
- ☐ 兄弟姉妹
- ☐ 祖父母
- ☐ 子・孫
- ☐ 兄弟姉妹の子（甥・姪）
- ☐ 把握していない
- ☐ その他（具体的に記入してください）

Q 6. 対象者と同居する家族の年齢について把握していますか。あてはまるものをすべて選択してください。（複数回答可）

- ☐ 9 歳以下
- ☐ 10 代
- ☐ 20 代
- ☐ 30 代
- ☐ 40 代
- ☐ 50 代
- ☐ 60 代
- ☐ 70 代
- ☐ 80 歳以上

Q 7. 対象者がひきこもり状態になられてからの期間について把握していますか。あてはまるものを1つ選択してください。

- ☐ (6か月以上) 1年未満
- ☐ 2～5年
- ☐ 6～9年
- ☐ 10～20年
- ☐ 21年以上
- ☐ 把握していない

Q 8. 対象者がひきこもり状態になるきっかけについて把握していますか。あてはまるものをすべて選択してください。(複数回答可)

- ☐ 不登校
- ☐ 受験でのつまづき
- ☐ 就職活動がうまくいかなかった
- ☐ 職場になじめなかった
- ☐ 失業・退職
- ☐ 病気やケガ
- ☐ 疾病(精神的なもの)
- ☐ 性格的なもの
- ☐ 事故や犯罪被害
- ☐ 把握していない
- ☐ その他(具体的に記入してください)

Q 9. 対象者の外出の頻度について把握していますか。あてはまるものを1つ選択してください。

- ☐ 必要に応じて外出している →Q10へ
- ☐ 自室からは出るが、家からは出ない →Q11へ
- ☐ 自室からほとんど出ない →Q11へ
- ☐ 窓も締め切り、生活している様子がうかがえない →Q11へ
- ☐ 把握していない →Q11へ
- ☐ その他(具体的に記入してください) →Q11へ

【Q 9で「必要に応じて外出している」と回答した方のみ】

Q 10. 対象者がどのようなときに外出しているか把握していますか。あてはまるものをすべて選択してください。(複数回答可)

- ☐ 趣味の用事のときに外出している
- ☐ 近所のコンビニやスーパーなどには出かけている
- ☐ 医療機関などには出かけている
- ☐ 理・美容室などには出かけている
- ☐ その他

Q 1 1. 対象者の情報をどのようにして把握しましたか。あてはまるものをすべて選択してください。(複数回答可)

- ☐ 本人からの相談
- ☐ 家族からの相談
- ☐ 近所からの情報
- ☐ 職務上の訪問等で確認
- ☐ その他（具体的に記入してください）

Q 1 2. 対象者やその家族が抱えている問題等について、どのようなことがあると思いますか。あてはまるものをすべて選択してください。(複数回答可)

- ☐ 経済的困窮（生活費、医療費など）
- ☐ 対象者と会えない、コミュニケーションが取れない
- ☐ 家庭内暴力（暴言・暴力等）がある、またはそのおそれがある
- ☐ 対象者の家族の負担が大きい（家族が抱える心身の不調・ストレス）
- ☐ 家族の高齢化
- ☐ 対象者の将来（親亡き後）の生活設計
- ☐ 対象者の騒音等の行動
- ☐ 対象者の健康上の問題（体調が悪くても医療機関を受診しない等）
- ☐ 対象者に社会とのつながりが無い
- ☐ 対象者に就労経験がない、または乏しい
- ☐ 対象者の状態にあった就労先がない
- ☐ その他（具体的に記入してください）

Q 1 3. あなたの日頃の業務や活動等における対象者への支援の状況について、あてはまるものを1つ選択してください。

- ☐ 現在、支援を行っている（定期・不定期的な訪問、家族への声かけ等も含む） →Q14へ
- ☐ 以前、支援を行っていたことがある（定期・不定期的な訪問、家族への声かけ等も含む） →Q14へ
- ☐ 特に支援はおこなっていない・行ったことはない →Q15へ

【Q 1 3で「支援を行っている」「行っていたことがある」と回答した方のみ】

Q 1 4. どのような支援を行いましたか。具体的に記入してください。

※例を挙げた方がよい？

例：自宅を訪問して対象者（家族）からの相談を受けている
家族に対し対象者への接し方等について助言している
居場所の提供を行っている
家族会を開催している
就業体験等を行っている
就労準備支援を行っている など

Q 1 5. 支援が困難だと感じたことはありますか。あてはまるものをすべて選択してください。(複数回答可)

- ☐ 支援者の人員不足
- ☐ 支援者が、ひきこもり当事者や家族を支援するための専門知識、スキルや経験が十分でない
- ☐ 家族の協力が得られない
- ☐ 家族から、早急な自立や就労をさせるよう求められる
- ☐ 精神疾患や発達障がいなどの疑いがあるが受診につながらない
- ☐ 激しい暴力・暴言がある
- ☐ セルフネグレクト状態である
- ☐ その他（具体的に記入してください）

Q 1 6. ひきこもり状態にある方に向けてどのような支援が必要と考えますか。あてはまるものを全て選択してください。(複数回答可)

- ☐ 気軽に相談できる窓口
- ☐ 自宅への訪問
- ☐ 医療機関の紹介
- ☐ 福祉サービスの申請支援
- ☐ 生活の支援
- ☐ 社会体験の場
- ☐ 悩みを話し合い、集える場所
- ☐ メタバース（インターネット上の仮想空間）などを活用した、匿名での交流・相談の場
- ☐ 仕事探しの支援
- ☐ その他（具体的に記入してください）

Q 1 7. その他、『ひきこもり』問題に関して皆さまの立場でご意見等ありましたら自由にご記入ください。

以上で調査は終了です。

ご協力いただき、ありがとうございました。